

お知らせ

ギャラリーあしや情報

1 ワークショップ 夏休み親子でクラフトトロッコ講座

重力を利用して、おもりで動く紙製のトロッコを作ります。夏休みの自由研究にもぴったりな工作講座です。親子で参加してください。

▽とき 7月24日(日)午後1時～3時

▽ところ 中央公民館4階

▽対象 5歳～中学生の子どもとその保護者(子どものみの参加不可)

▽定員 16人(事前申し込み先着順)

▽参加費 100円(材料代)

▽申し込み期限 6月30日(日)～7月22日(金)

2 特別展「村井ひとみ 個展」

北九州市生まれの芸術家、村井ひとみさんの作品展です。インスタレーション(空間演出)や立体作品により表現される、色鮮やかな現代アートの世界をお楽しみください。

▽とき 7月30日(日)～8月28日(日)

▽ところ 中央公民館3階

▽問い合わせ・申し込み 午前9時～午後5時 中央公民館(☎2222・1681)



※月曜日は休館です。

芦屋釜の里イベント情報

1 夏限定、抹茶アイス

星野村の抹茶と阿蘇のジャージー牛乳を使った、こだわりの味をご賞味ください。

▽期間 7月9日(日)～8月31日(日)

▽料金 中学生以上500円、小学生300円、未就学児200円(入館料とアイス、冷茶代)

2 七夕茶会

新緑が美しい季節に七夕茶会を行います。

▽とき 7月3日(日)・午前10時、11時、正午、午後1時、2時の5回に分けて行います。

▽定員 各回14人(先着順)

▽ところ 芦屋釜の里 大茶室

▽内容 大茶室での茶会(和菓子と抹茶)

▽料金 中学生以上500円、小学生300円、未就学児200円(入館料とお茶代)

※混雑時には入場制限を行う場合があります。

3 朝顔呈茶

夏の庭園の風情を楽しみながら抹茶を一服いかがですか。

▽とき 7月30日(日)、31日(日)・午前9時～午後4時40分

▽ところ 芦屋釜の里 立礼席

▽内容 立礼席での呈茶(和菓子と抹茶)

※お点前はありませぬ。

▽料金 中学生以上500円、小学生300円、未就学児200円(入館料とお茶代)

4 夏休み園内クイズラリー

▽とき 7月21日(日)～8月31日(日)・午前9時～午後5時(受け付けは午後4時40分まで)

▽ところ 芦屋釜の里 施設内各所

▽内容 施設内にあるヒントを見てクイズを解く(すべてのクイズに正解した人には抽選で賞品を進呈)

▽対象 中学生以下

▽参加費 中学生200円、小学生100円(入館料)

5 子ども鋳物講座

夏休みに鋳物の作品づくりに挑戦してみませんか。

▽とき 7月31日(日)・午前10時～11時30分

▽ところ 芦屋釜の里 図書室

▽内容 錫の絵皿づくり

▽対象 小学4年～中学3年生

▽定員 8人(先着順)

▽参加費 小学生650円、中学生750円(入館料を含む)

▽申し込み期間 7月1日(日)～15日(金)

▽問い合わせ・申し込み

芦屋釜の里(☎2223・5881)へ

※月曜日は休館です。ただし、月曜祝日の場合はその翌日が休館です。

ウクライナ人道危機救援金 支援ありがとうございます

ウクライナで

の人道危機対応やウクライナからの避難民を受け入れる周辺国などでの救援活動を支援するため、救援金を受け付けています。



皆さんのご協力により、3月15日～5月31日に27万5402円の救援金が集まり、日本赤十字社に送付しました。

また、駐日ウクライナ大使館へ人道支援金として、芦屋町から500万円を寄付しました。

引き続き救援金箱を設置していただきますので皆さんのご協力をお願いします。

▽受付期間 9月30日(金)まで

▽設置場所 役場1階総合案内、2階総務課窓口、芦屋町図書館、芦屋釜の里、芦屋歴史の里

▽問い合わせ 庶務係(☎2223・3572)

掲載の催しなどは、新型コロナウイルスの感染拡大の状況によって、変更・中止となる場合があります。

芦屋歴史紀行

その三百十四

その時、
芦屋で時代がつくられた
決戦 源平合戦⑥
モノノフの時代

壇ノ浦の戦い

壇ノ浦の戦いは元暦2／文治元
(1185)年3月24日朝、平氏の
攻撃によって開始されました。最新
の研究結果によると、この日は一
日中関門海峡の潮流は東へ向かっ
ていたことが分かっています。彦
島(現・下関市)の陣から出た平氏
軍は、潮流によって源氏軍を満珠・
干珠島(現・下関市長府の沖にある
2つの小島)あたりまで追っていま
す。山鹿秀遠の奮戦ぶりが「平家物
語」巻11「遠矢」の事に記されてい
ます。

『平家は千余艘を三手に分ける。
山鹿の兵藤次秀遠五百余艘で先
陣に漕ぎ向かう。松浦党三百余
艘で二陣に続く。平家の公達二
百余艘にて三陣に続き給う。兵
藤次秀遠は九国(九州)一番の
精兵で、彼ほどではないにしろ
精兵たち五百人を船の艦舳(船

尾と船首)に立て、肩を一面に
並べて、五百の矢を一度に放つ。
源氏は三千余艘の勢いで数多い
のだが、バラバラに射るだけで
特に名手がいるとも思えなかつ
た。大將軍、九郎大夫判官(源
義経)は真つ先に進み出る。し
かし盾も鎧も堪えられず散々に
射ちかけられ、後退する。平家
方はこちらの勝ちぞと、しきりに
攻鼓を打ち鳴らし、勝鬨をつ
くった。(※現代語訳)』

しかし、はじめ優勢だった平氏軍
も、時間がたつと源氏軍優勢となり
追い詰められていきます。続いて同じ
巻の「先帝身投」の事のくだりには、

『さるほどに源氏の兵共、平家
の船に乗り移りければ水手梶取
共、或いは射殺され、或いは斬
り殺されて、船を直すに及ばず、
船底に皆倒れ伏しにけり(※原
文)』

とあります。この精兵も、水手・梶
取(船頭)も、すべて山鹿・芦屋の
浦々から、秀遠が引き連れていった

郷土の若者たちでした。

古代・中世の国内戦では、武者同
士での一対一の戦いが基本であり、
そのほか騎乗を許された郎党まで
が戦闘員であり、それ以外は非戦闘
員として、攻撃の対象にしないのが
作法でした。しかし海戦に慣れない
東国の兵を率いる源義経は特殊な
指示を出します。海戦に巧みな平氏
軍に勝つには、まず船の機動力を奪
うこと、つまり武士よりも漕ぎ手
を狙い打ちせよと指示しています。
当時としても戦の作法にかなわぬ
この戦術。さらに潮の流れ、陸に陣
取った源範頼軍からの射撃、友軍の
寝返りなどによって、激闘数刻のう
ちに失われた平氏軍の命の大部分
は我が郷土芦屋・山鹿の祖先たちで
した。

こうして安徳天皇・二位の尼・建
礼門院はじめ女官たちは入水、平
知盛以下一門のものは海中に身を
投じ、その日の夕刻までに合戦は終
わり、平氏は滅亡しました。

『主もなき空しき船は、潮に引か
れ風に従って何方を指すともな
く揺られ行くこそ悲しけれ。(同
巻「内侍所都入」より原文)』

(芦屋歴史の里)

編集後記

▼最近暑い日が続いて汗だくにな
りながら仕事や取材をしています。
衣替えの時期にもなり、
6月1日から芦屋町オリジナル
ポロシャツの販売が始まりました。
私も購入しましたが、今年の
デザインもとても良くて気に入
っています。皆さんも店頭など
で見かけたらぜひ手に取って
みてください。私のおすすめはア
ーミーグリーンです。この夏も
暑くなりそうなので皆さん熱中
症に気を付けて下さい。(手塚)
▼皆さんの生活に身近な情報を
LINEで配信しています。町
の公式LINEを友だちとして
登録してみてくださいね。二次
元コードをスマホのカメラで読
み取って登録すると簡単です。

二次元コード (QRコード)の 読み取り方法



このページの下に「芦屋町公式LINE」
の二次元コードがありますか
ら、試してみてください。(那木)
▼2年ぶりに花火大会など、町
の夏のお知らせを掲載しまし
た。今のところワクワク80%、緊
張感も入ってドキドキ20%です
が、感染症対策をカンペキにし
て100%楽しみます。(鍛守)

